

九州地域における次世代ヘルスケア戦略に関する研究会 第5回 議事要旨

(1) 地域とヘルスケア

プロジェクトに関わるステークホルダーとの意見・利害関係の調整等の重要性を改めて認識。またそのプロセスで、自社の事業や社会的意義などを押し出しつつ、ぶれない姿勢が重要であることを認識。

例えば、①健康寿命の延伸においては、高齢者だけをターゲットとするのではなく、全世代が関与することにより、対象者本人＋地域にモチベーションを持たせることも重要。②持続可能なプロジェクトのためには、行政だけに頼るのではなく、民間事業者としてサービスを提供していくことが必要。

学術的取組については、産業振興等の新サービス創造の分野へと拡張していくことを認識する一方で、特有の難しさも浮きぼりに。①行動変容を促す1つのツールとしてアプリが有効であり、ユーザビリティを意識した取組が進められている。②地域のヘルスケア上の課題を、地域で解決していくことが重要。そのためには地域のデータが必要で、地域の企業の関係性が不可欠に。③課題に対して、どのような解決策があるかのニーズオリエンティッドな議論が必要。

全体にまだ不十分なことも多い。例えば、①社会保障費を削減したいと言いつつ、データ活用する為に多大なITコストが掛かっているというのも現状。②個人情報保護に関する議論、情報基盤法で集約してビッグデータ化して利活用する議論、ヘルスケアビジネス等の新産業に関する議論が混在していることが多く、整理が必要。③データを集めただけでは使われないので、何に使いたいのかと、何のサービスをしたいのかを顕在化する必要。

(2) イノベーション創出とヘルスケア

キーワードは「異分野進出」と「医工連携」。また今の主流は、IT系からヘルスケア系への進出や事業転換では、ITの知見や経験があり、経営ノウハウ・資金調達ノウハウもあることが、ヘルスケア・イノベーションにとっては大きいのでは。研究者や医療従事者がアイデアがあるからといって創業したとしても収益化の壁にぶつかる可能性も大きい。

データ駆動社会といわれるが、データの先に顧客がいて、それを自分のところで囲い込んでいるのが現状。大手企業を中心に、事業環境整備のため、データを共有化させようという動きが見られる。今までは縦割りで、1事業体の生産性を上げるためのIT導入が行われてきたが、今後は、業界全体もしくは地域全体の生産性やサービス向上を目指したIoT・AIの導入が不可欠。

経営者が健康経営による従業員の健康向上にもっと興味を持つとともに、保険者のインセンティブの強化が必要。